

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ）月 日 曜日

白谷雲水峡

安房小学校

蛭田

颯太

六年

「よし、今日は白谷雲水峡を登ぼり切るぞ。ぼくは、初めての白谷雲水峡にわくわくしていた。」

ある日、ぼくと、ママと、兄と、ママの仕事の友達といっしょに白谷雲水峡を登ることになった。目指すは「たいこ岩」。

白谷に来たら、とうとう山登り開始。山の中はずしかなかった。始めは整備されてきた道

だ。たけと橋をわた、た先は整備されておらず、さびに整備された道の坂もきついのには

整備されてない道だと、とてもきつかった。そのきつい坂を登り切った後、もう楽かな。

と思、たけと山登りは、まだ、これかた、た。ちよこちよことたまにベンチや休める所

などを使って、何度も休みながら行けた。がんばって登っているとき、下山してきた人

がさわいでいたのを見に行くと、シカがいた。ときどきおりにくる人たちに応援してくれ

No.

3 時はどの行も二はんめのマスから書き頭をそろえましよう。

4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不評複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。  
2 段落の初めは、必ず一字下けて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ） 月 日 曜日

て、つかれた時も休んで、かんばろうと思っ  
た。そして、最後の休けり所のかん板に「お  
弁当はここで食べて、たいこ岩では食べない  
で。」と書いてあった。ぼくたちはお弁当をた  
いこ岩で食べるつもりだった。なので、ぼく  
たちは話し合ってたいこ岩に行つてから、お  
りて、ここにもどつてきたときに食べようと思  
なつた。たいこ岩まであと少し、ここから楽  
と思つたり最後の最後に今までで、最もキリ  
うな坂ゆっくり少しづつ登つて行くとちよう  
上の光と人の声が聞こえた。たくさん休みを  
かからも、たいこ岩まで登り切つた。  
だけど、周りには、キリでつつまれている。  
けど、とても高いと感じた。五分ほどだった  
とき、一分ほどキリが晴れた。そのときはい  
目の前の川が千と千尋のはくのりやうのよう  
に見えた。とても高くきれいだ。十分ほど  
いたが、次の人たちが来たので、さっきの休け  
り所にもどつた。

山に登り切つた後、のからあげ弁当は最高だ

No.

3 時はどの行も二はんめのマヌから書き頭をさるましよう。  
4 書き終つたら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところをはけずりましよう。

(不許複製)



鹿児島県小学校教育研究会国語部会発定

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。  
2 段落の初めは、必ず一字下けて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

( ) 月 日 曜日

た。でも弁当はゆれてぐちゃぐちゃだった。でもおいしいしかった。

山をおりにしているとき、種子島と屋久島にしか生えくしないクワガタのようなアゴのめざがしりアリがいた。はじめは新種のアリかと思

ったけど、調べたら違った。

くだりは楽だったのでびよんびよん進んだ。あと少しでゴールの時に、みんな「あと少しでゴールだよ」と言った。

やっと、ゴールしてみんなよろこんでいた。ぼくはへとへとですぐに近くのベンチにすわった。親たちはトイレに行ったので、帰って来るまでベンチで、兄と、まわった。

親が来たので、車にもどった。車の中で、つかれたのでゆくりねた。

ぼくは、白谷へ行ってみて、思ったことは、白谷は、たいこ岩の上は、とてもきれいだけど、そこへ行くまでの道のりがつらいのだと思

った。でもかんはれぼがらるだけ、とてもきれいなけしきを見られると思った。

No.

3 詩ほどの行き止まりのマスから書き頭をそろえましよう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直し、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不詳複製)

